

軽量型油圧引張試験機

TRA-30t 型

あと施工アンカー引張試験機

取扱説明書



適合サイズ

M22 ~ M33

D19 ~ D29



株式会社 トラスト

〒567-0029 大阪府茨木市五日市緑町5番32号
(TEL) 072-621-4164 (FAX) 072-621-4166

目 次

1,	各部名称	……	P-1
2,	組立手順	……	P-2 ~ 3
3,	操作手順	……	P-4 ~ 5
4,	注意事項	……	P-6

1, 各部名称



油圧ポンプ

センターホールシリンダー

油圧ホース

反力台

圧力計、短脚

長脚

センターシャフト

カプラ (M22 ~ M33)

2, 組立手順



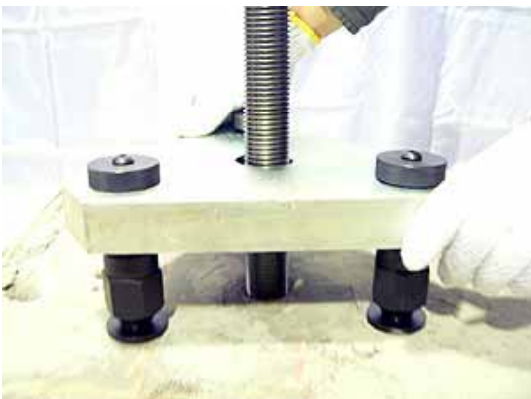
あと施工アンカーが内ネジの場合、
適合サイズのボルトをねじ込みます。

⚠ ねじ込みは確実に行ってください。ねじ込みが
不十分であるとボルト等のねじ山が損傷し、ボルトや
機械が飛び出して事故や怪我を招く恐れがあります。

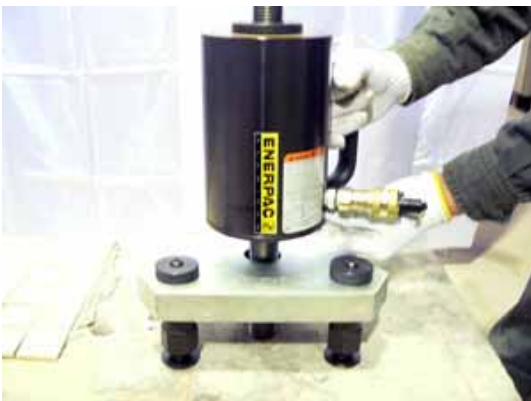


おねじの場合はボルトのネジに適合する
カブラを取り付けセンターシャフトを
ねじ込みます。

注意・・・反力台に当たる場合は長脚セット



反力台の中心がボルトの中心に来るよう
設置します。



センターシャフトにセンターホールシリンダー-
を通します。

⚠ 壁面及び天井向きの場合、落下による怪我や
機械の破損が考えられます。
必ず落下防止措置を講じて下さい。



脚の調整をします。

アンカーが垂直に施工されていない場合や
躯体に凹凸がある場合等は、脚を回して
アンカーと本体が直角になるように、調節
して下さい。この際、3本の脚を均等に接地
させて下さい。



ワッシャー、ナットをセットして、全体的に
がたつかない程度に締め込みます。



油圧ホースのキャップをはずし、
センターホールシリンダーと油圧ポンプの
カプラにカチッと音がするまで
押しはめ込みます。



カプラをしっかりとめ込んで下さい。

隙間があると油もれや故障の原因になります。



設置(組み立て)完了

3, 操作手順



圧力計の置針を“0”に合わせます。
(圧力計中央のツマミを回すと赤針が回ります)

黒字・・・Mpa

赤字・・・kN

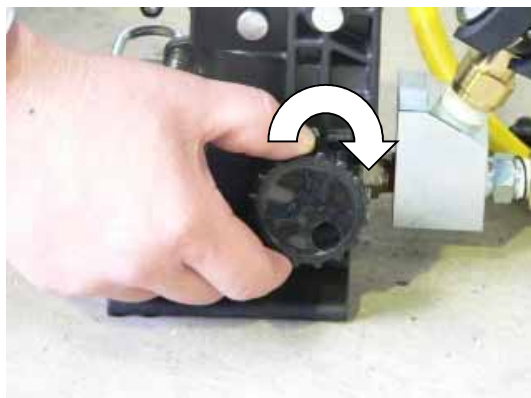
赤の数字がkN目盛になります




ハンドルの根元にあるロックピンを外します。



ポンプ後部の空気弁(給油口兼用)を
左に1/4回転させ空気弁を開放します。



油圧ポンプの出戻バルブを右方向
(圧力計の方向)に回します。

 (停止するまで回してください。但し工具等を使用すると破損の恐れがありますので必ず手で回してください。)



ハンドルをゆっくり上下に繰り返し、
設定荷重まで加圧します。

【加圧速度の目安】

$$\text{アンカーねじ径の有効断面積 (mm}^2\text{)} \times \text{毎秒 } 0.02\text{kN/mm}^2 = \text{kN}$$

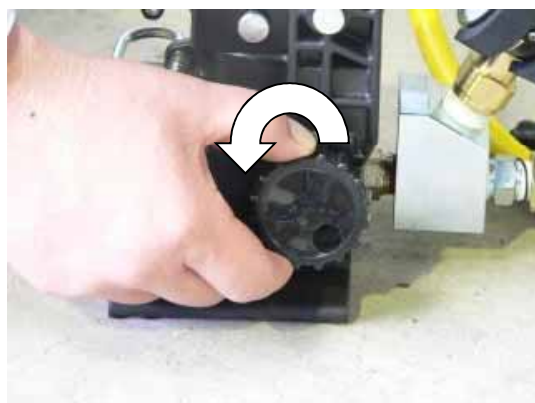
(例) M16の場合

$$157.0\text{mm}^2 \times \text{毎秒 } 0.02\text{kN/mm}^2 = \text{毎秒 } 3.14\text{kN}$$



針の指す部分が最大荷重です。

(1目盛: 10kN)



出戻バルブを左方向(ポンプ側)にゆっくり
回して減圧します。

**⚠ 急激に減圧するとゲージを
破損する恐れがあります。**



使用後

- ・バルブを右に回して閉めて下さい。
- ・空気弁を全閉にして下さい。
- ・レバー握り部をロックピンで固定して下さい。
- ・油圧ホースを外して下さい。
- ・カプラには必ずキャップを付けて下さい。

4, 注 意 事 項

- 1, 説明書をよく読み理解してから、ご使用ください。
- 2, 指定用途以外には、使用しないで下さい。 損害、怪我を招く恐れがあります。
- 3, 圧力計には、急激なショックを与えないで下さい。 故障の原因となります。
- 4, 油を使用しているため、火気の附近や溶接作業を行っている場所では使用しないで下さい。
- 5, 使用中油温が60 を越すと圧力が上がらない場合があります。冷却後、使用して下さい。
- 6, 油が目に入った場合は、清浄な水で15分間洗浄し、医師の診断を受けて下さい。
- 7, 油が皮膚に触れた場合は、水と石鹼で十分に洗ってください。
- 8, 油を飲み込んだ場合は、無理に吐かせず、直ちに医師の診断を受けてください。

『引張荷重について』

あと施工アンカー引張試験での引張荷重は、それぞれの現場、または、設計事務所によって多少異なる場合があります。

設定荷重値は設計事務所、または、現場監督に確認した後、引張試験を行って下さい。

本機は非破壊試験機です。母材の破壊やアンカーボルトの破断等のないよう、

加える荷重には十分注意してください。